

情報戦の状況把握と 効果的な対応策/国際連携に関する調査研究

2025年度 外交・安全保障調査研究事業費補助金
【調査研究事業:情報空間の拡大がもたらすリスク】

事業成果説明補足資料

2026年4月10日

(公財)中曽根康弘世界平和研究所

令和7年度事業:①SNS空間モニタリング(事例分析)、②日本のデジタル空間における偽情報の影響、③影響工作に対する政府の対策について研究

情報収集・調査

検討

研究成果(新たな知見)

成果還元

SNS空間の
モニタリング

ニュースデー
タベース分析

MeltWater社のSNS
データベース(外注)

電通グループの
研究チーム

賛助協力

Sakana AIのオブ
ザーバー参加、
分析協力

情報空間の偽情報の
実例に関する検討

デジタル空間におけ偽
情報流布と外交安全保
障への影響の分析

「情報空間のリス
ク研究会」
(研究者10名)
(若手8名、女性3名)

攻撃側のドクトリ
ン・手法

攻撃側のドクトリン・手
法に関する分析

・中国による衆院選における影響工作の
発見・観測
-「軍国主義」批判のナラティブを展開
-社会不安・台湾有事に関するナラティブも
利用
・ロシアによる参院選における影響工作の
観測
・ロシアによる影響工作手法の変化の発
見:現地協力者(インフルエンサー)方式
の利用

①各国における認知戦の状況
②選挙を標的とした中露の影響工作メカ
ニズムの解明
③日本のSNS空間における情報拡散の様
態の解明
④AIを用いた情報空間分析の利用可能性
の検討

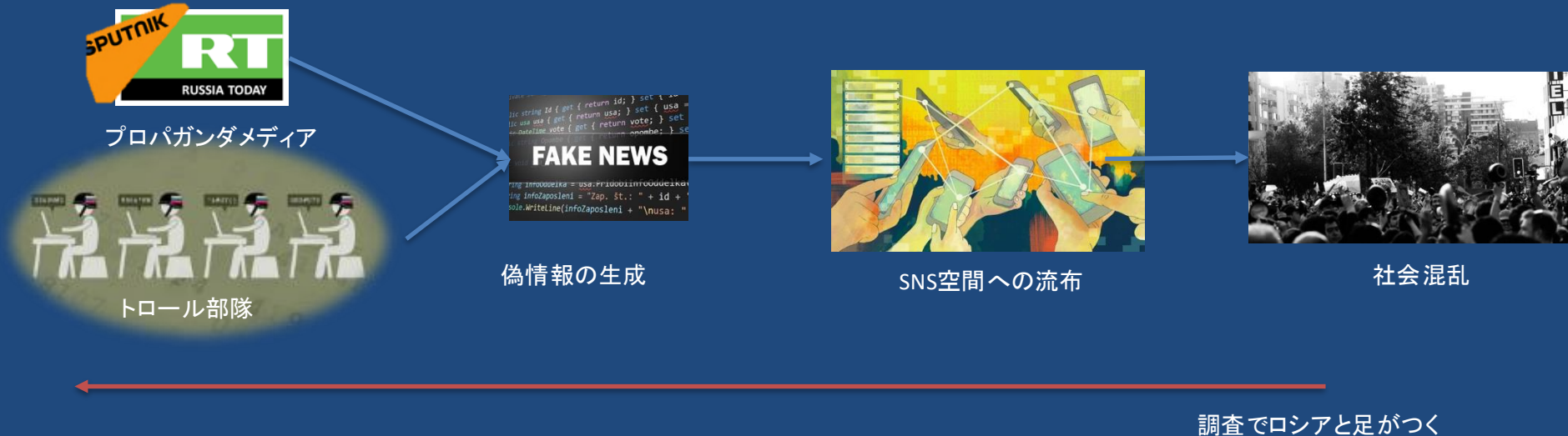
ロシア、中国に代表される中央集権型独
裁国家は、自国が国際社会で優位を形成
するためのナラティブをベースに、外交イ
ベントや選挙の機会を利用して世論工作
や偽情報を仕掛けている

研究成果をもとに

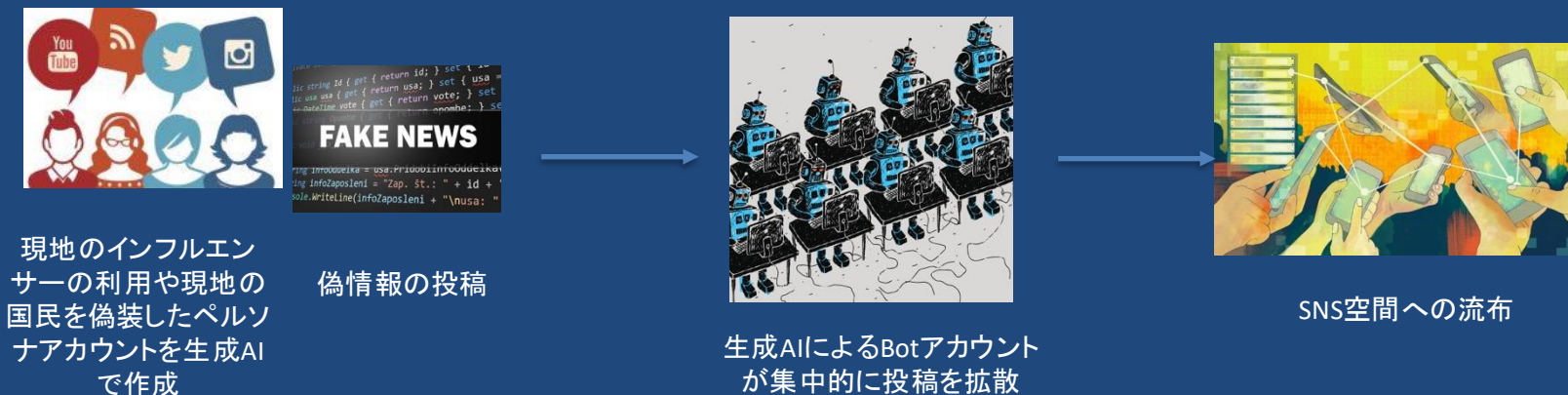
・政治家・官庁向け
レク・勉強会の実施
(13回)
(自民党、外務省、
内閣官房、防衛省、
自衛隊)
・外務省向け報告
書
・在外広報官会議
でのレクの実施
・情報戦TTX(外務
省、内閣官房、防
衛省、総務省他対
象)の実施(26年3
月)
・論文・コメンタリー
(8点)
・メディア出演・新
聞寄稿(4回)
・公開ウェビナーの
実施(1回)
・海外シンクタンク
との意見交換(3
回)
・研究会成果概要
のWeb公開

研究成果例:ロシアの「情報戦/影響工作」の手法の変化

従来の手法



最新の手法



研究成果例:衆院選における中国の影響工作アカウントの発見

1) 高市首相が軍国主義者というイメージを広めようとするグループ

- ・発信用アカウント群は、高市首相が軍国主義者とのミーム(右図)を用いた日本語による発信を1/16から開始(それ以前は投稿無)。
- ・発信用アカウント群をフォローし、広めるためのアカウント群(日本人名、所在地外国、26年1月登録)と拡散チェーンの構築が選挙戦中に見られた。
- ・これらのアカウント群は、選挙戦終盤～終了後に、削除(証拠隠滅と考えられる)。



(共通して用いられているミーム、最左図は人民日報アカウント掲載のミームを日本語化)

- ・高市首相が軍国主義者との別のミーム(右図)を用いた日本語による発信を1/22から開始したアカウント群も観測された。



(画像はChina Dailyを再利用したもの)